

# 令和4年度 静岡県美容専門学校 学校評価報告書

5.3.24

## 1. 教育理念・教育目標

評価基準： A 適切である B ほぼ適切である C やや不十分な点がある D 不十分な点がある

評価項目	自己評価
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像が、明確に示されているか	A
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、卒業時の到達が読みとれるものになっているか	A
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、定期的に見直されているか	A
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、学生に浸透しているか	B

〔現状の問題点〕

- ・教育方針等は、始業式、終業式などで意識を持たせており、生徒にその趣旨が浸透しつつある。
- ・教育方針等は、授業をはじめとする日々の教育活動で指導する必要がある。

〔改善のための方策〕

- ・入学式、始業式、終業式等の場で、保護者や生徒に繰り返し教育目標などを語っていく。
- ・日々の授業やホームルームなど、全教育活動を通じて美容師としての在り方を指導する。

〔結果検証〕

- ・「利他の精神」ほか、4つの教育方針、目指す学生像は本校生徒をはじめ、受験生にも定着しつつある。

## 2. 教育活動

評価項目	自己評価
・カリキュラムは教育目標が反映されているか	A
・定期的なカリキュラムの見直しが行われているか	A
・テキストや教材は適切なものを選定しているか	A
・シラバスが作成され学生に配布されているか	A
・授業の点検・評価が適切に実施されているか	A
・国家試験や各種検定の合格率は目標を超えているか	A
・成績や出席が目標に到達しない学生に適切なフォローが行われているか	A
・進級、卒業の判定審査は適切に実施されているか	A

〔現状の問題点〕

- ・教育課程の現状と問題点を精査し、本校としての令和6年度・7年度版教育課程を検討する。
- ・コース選択制において、授業内容を点検し、時代の流れに即した特色を出す必要がある。
- ・学生による授業評価を踏まえ、学生の授業満足度を高めるため指導方法を改善する必要がある。

〔改善のための方策〕

- ・引き続き、全教員が学生からの授業評価を受け、質が高く、かつ分かる授業を行う。
- ・国家試験対策では、教員全員で指導法を確認し、弱点補強のための反復練習の徹底と自己採点を行う。
- ・成績不振者等に対する追試、補習授業等の指導に力を入れる。
- ・学習アプリの活用をすすめる。

〔結果検証〕

- ・成績不振者に対する指導に力を入れた結果、学力の向上がみられた。
- ・昼間生、通信生とも国家試験全員合格は未達成であったが、学生への全体・個別指導は緻密さを増している。
- ・各種検定に取り組む姿勢も積極的であり、合格率も向上した。
- ・プロフェッショナルコースでは、フォトの授業を取り入れコンテストで受賞させることができた。

## 3. 学生受入れ

評価項目	自己評価
・学生募集のための広報資料の表現・内容、広報活動の方法・時期は適切か	A
・入学案内、HPには志願者が必要とする情報が掲載されているか	A
・募集要項の内容は適切か	A
・学校見学会、オープンキャンパスの時期、内容は適切か	A
・入学者選抜の時期、方針、方法は適切か	A
・志願者状況、定員充足率はどうか	A
・中途退学の理由・実状を適切に把握しているか	A

〔現状の問題点〕

- ・昼間課程は、AO入試・推薦入試・一般入試の区分で実施しているが、年々、AO入試の入学者が増えている。
- ・県内高校生が首都圏など県外の美容師養成学校に進学している現状がある。

〔改善のための方策〕

- ・高校生への説明会だけでなく、HPの充実、テレビCM又はSNSを利用して様々な広報活動を展開する。
- ・引き続き学校紹介動画の作成や、コース制発表会の動画配信などで生徒受け入れ確保を目指す。
- ・美容業の周知と学生確保を目指して、合同進路ガイダンス、高校別進路説明会に積極的に参加する。

〔結果検証〕

- ・進路情報誌への掲載、テレビCM、SNS広告の発信など、広報の充実を図ることができた。
- ・コロナウイルスの影響でオープンキャンパス、学校見学会は人数制限をしておの開催となった。
- ・志願者は、令和4年度入学の昼間課程も、昨年同様、100名を超える人数の確保ができた。

## 4. 教職員組織

評価項目	自己評価
・専任教員は設置基準を満たしているか	A
・専任教員1人あたりの担当科目時間数は適切か	B
・教職員の業務内容は明確になっているか	B
・教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	B
・教職員の資質向上のためのシステムは適切に構築されているか	B
・職員は業務が滞りなく遂行できる人数を雇用しているか	B

〔現状の問題点〕

- ・教職員の能力評価、教員の授業力評価が十分に機能していない。
- ・教員の美容に係る技術指導力と教科指導力の向上を一層図る必要がある。

〔改善のための方策〕

- ・教員の技術力、座学指導力の向上を図り、学生の満足度を高めるため、引き続き教員間の公開授業を進めていく。
- ・美容技術の向上のため、指導体制を明確にした上で全教員による勉強会を実施していく。

〔結果検証〕

- ・教職員の業務分担表を例年以上に細分化し、それぞれの職務が一層明確になった。
- ・教員相互間の公開授業の実施がなかなか難しいが、授業改善は徐々に進んでいる。
- ・全教員が全ての美容技術を高いレベルで身に付けなければならないという共通認識は図られた。
- ・教員の指導力向上のため、勉強会を実施し、技術指導の統一化を作り上げた。

## 5. 施設・設備等

評価項目	自己評価
・講義室は学習を行うのに十分な面積を有しているか	A
・実習室は実習を行うのに十分な面積を有しているか	A
・実習設備は整備されているか	A
・講義室・実習室の管理は適切に行われているか	A
・学生が自学自習できる教室を有しているか	A
・図書室は適切に整備されているか	A
・保健室は適切に整備されているか	B
・教育用機器備品は整備され活用されているか	A
・職員室の管理は適切に行われているか	A
・事務室の管理は適切に行われているか	A

[現状の問題点]

- ・施設・設備の老朽化が進んでおり、補修工事が必要な箇所がでてきた。
- ・図書室の収蔵図書は増加しているが、その利活用が不十分である。

[改善のための方策]

- ・補修・交換が必要なものは、優先順位を決めて工事を行う。
- ・生徒が利用しやすい図書室に改善する必要がある。

[結果検証]

- ・施設・設備の破損・老朽化については、逐次対応できている。
- ・感染症を踏まえた保健室の検討が必要。
- ・図書室について、収蔵図書は増やしたが、今後検討する必要がある。

## 6. 学生生活支援

評価項目	自己評価
・奨学金等、経済的支援は整備されているか	A
・学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか	B
・各学校行事について、適切な事後反省を行っているか	A
・防犯・防災訓練の実施等、不法侵入・災害に対する整備は万全か	A
・進路活動に関する支援が整備され、機能しているか	A
・新たな就職先の求人開拓をしているか	A

[現状の問題点]

- ・防災訓練を年2回実施しているが、マンネリ化の傾向がある、避難地への移動・人員把握レベルに止まっている。
- ・本校就職ガイダンスに参加する美容室の精査等、求人開拓のさらなる工夫が必要である。

[改善のための方策]

- ・地震等災害時の被害予測を調査し、通学地区ごとに危険個所の把握を行う。
- ・校内の防災用品の整備・点検を進めるとともに、効果的な防災訓練を実施する。
- ・県内外美容室の開拓と勤務条件とその実態を把握し、生徒に安心して推薦できる就職先を精査する。

[結果検証]

- ・高等教育の無償化の導入により、対象となる生徒の経済的負担が軽減された。
- ・防災用品の説明、地区別人員把握などに止まり、新たな防災訓練は実施できなかった。
- ・心理療法カウンセラー講座に職員を参加させた。
- ・社会保険加入その他の勤務条件を重視する本校の姿勢は、美容室側にも伝わりつつある。
- ・4月には、県外就職希望者29名を、東京で行われた合同就職イベントに参加させた。
- ・県内ガイダンスに関しては、コロナ禍ではあったが3回実施(55社参加)できた。

## 7. 管理・運営

評価項目	自己評価
・理事会・評議員会は適時適切に開催され、機能しているか	A
・理事会、評議員会の議事録は適切に作成、管理されているか	A
・就業規則などの諸規程は適切に整備されているか	A
・就業規則などの諸規程・学則等が定期的に見直されているか	A
・組織間の連携は適切に図られているか	A
・消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか	A
・個人情報保護法を遵守しているか	A
・学校の財務情報を公開する体制が整備されているか	A

### 現状の問題点

- ・教職員の能力や実績を鑑みて、仕事量の調整や再配分をする必要がある。
- ・組織間の連携は進みつつあるが、意思統一の面で不十分な点がある。

### 〔改善のための方策〕

- ・学校の財務情報をホームページで公開し、多くの人に見てもらうようにする。
- ・教務が中心となり、各学年部・通信部との打合せを繰り返し行った。

### 〔結果検証〕

- ・教職員の能力と実績の評価は行うことはできたが、仕事量の再配分はまだ十分ではない。
- ・財務状況等を本校ホームページで公開し、多くの閲覧者に見てもらうことができた。
- ・意見交換を繰り返し行った結果、教職員同士の相互理解が進み、意思の統一ができるようになった。